

提 言 書 (案)

「『未知への挑戦』とくしま行動計画」
の評価結果について



令和4年11月

県政運営評価戦略会議

はじめに

県政運営評価戦略会議（以下、「戦略会議」という。）では、県政運営指針である「『未知への挑戦』とくしま行動計画」（以下、「行動計画」という。）について、主要施策ごとの進捗状況の評価等を実施した。

今年度は、令和元年度に策定された行動計画の3年目の評価として、「令和3年度を取組及び成果」を基礎としつつ、会議における委員間の協議の結果も踏まえ、評価を行った。

また、とくしま目安箱等に寄せられた「県民からの意見・提言」の中から、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として7件を採択した。

ここに、評価結果等を「提言書」として取りまとめたので、徳島県総合計画審議会において速やかに御協議いただき、「既存事業の見直し」や「新たな事業・施策の展開」につなげるとともに、「次期総合計画」の策定にも御活用いただきたい。

令和4年11月18日

県政運営評価戦略会議
会長 石田 和之

目 次

| | ページ |
|---------------------------------|-----|
| I 行動計画の評価について | 1 |
| 1 評価方法について | 1 |
| (1) 評価の対象 | 1 |
| (2) 判定・評価の単位 | 1 |
| (3) 判定・評価の基準及び手順 | 1 |
| (4) 戦略会議の開催状況 | 1 |
| 2 評価結果について | 2 |
| (1) 総括 | 2 |
| (2) 評価結果の概要 | 4 |
| (3) ターゲットごとの意見 | 5 |
| (4) 総合的な意見 | 10 |
| (5) 「DX」および「GX」の視点からの意見 | 11 |
| 3 次期総合計画への反映 | 13 |
| II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について | 14 |
| 戦略会議委員名簿 | 16 |

(行動計画評価別冊) 判定結果, 評価結果, DX項目一覧表, GX項目一覧表, 評価シート

I 行動計画の評価について

1 評価方法について

昨年度に引き続き、評価基準を客観化し、計画改善見直しに向けた「委員からの提言」に重きを置く評価方法とした。

また、県では、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）を始めとした「3つの国難」打破に向け、「デジタル・トランスフォーメーション（以下、「DX」という。）」と「グリーン・トランスフォーメーション（以下、「GX」という。）」の実装を2つの推進エンジンとして位置づけ、施策の展開を図っていることから、「DX」および「GX」に関連する項目を大括り化して取組状況を可視化し、委員から意見を募った。

(1) 評価の対象

行動計画に位置付けられた主要施策（91施策）の「令和3年度の実績及び成果」を評価の対象とした。

(2) 判定・評価の単位

- ① 判定
主要事業（637事業）を判定単位とした。
- ② 評価
主要施策（91施策）を評価単位とした。

(3) 判定・評価の基準及び手順

- ① 判定
担当部局があらかじめ作成した評価シートを基に、「数値目標」の達成率を基礎として、「主要事業」の達成率を算出し、次の区分のとおり、A、B又はCの3段階で、客観的、機械的に判定した。

| 主要事業ごとの「判定」区分 | | |
|-----------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| A | B | C |
| 主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上 | 主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満 | 主要事業ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満 |

- ② 評価
判定結果から算出した評価案を基に、会議における委員協議の結果を踏まえ、「順調」、「要注視」又は「要改善」の3段階で評価した。

| 主要施策ごとの「評価」区分 | | |
|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|
| 順調 | 要注視 | 要改善 |
| 主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 90%以上 | 主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%以上90%未満 | 主要施策ごとの数値目標の達成率の平均 80%未満 |
| 委員の「評価に対する意見」、「改善見直しにつながる意見」を加味 | | |

(4) 戦略会議の開催状況

- 第1回会議は 7月22日（金）、
- 第2回会議は 8月 8日（月）、
- 第3回会議は 8月22日（月）、
- 第4回会議は11月18日（金）に開催した。

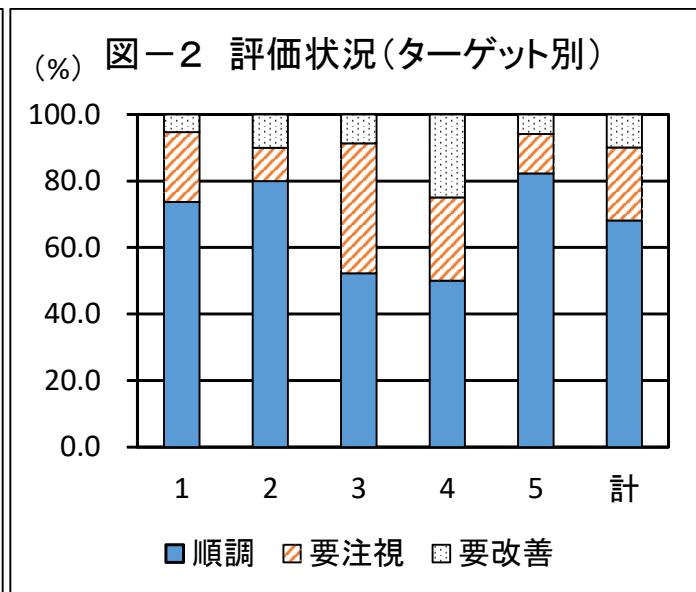
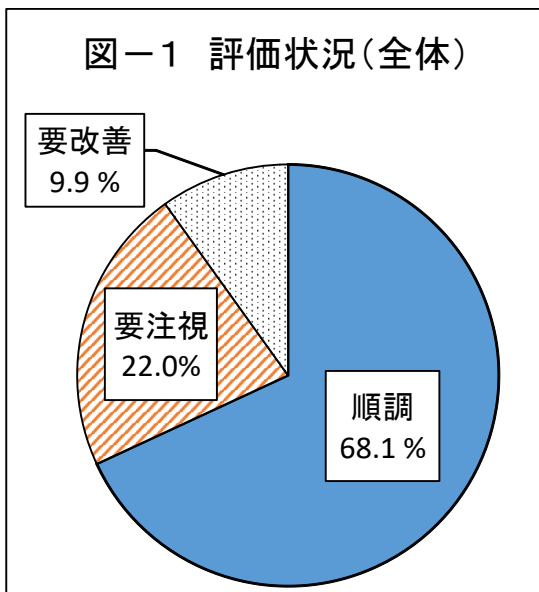
2 評価結果について

(1) 総括

今回の評価結果は、次の表－1のとおり、
 「順調」と評価したもの 62施策 (68.1%)
 「要注視」と評価したもの 20施策 (22.0%)
 「要改善」と評価したもの 9施策 (9.9%) となった。

表－1 主要施策の評価結果

| ターゲット | 主要 施策数 | 評価結果 | | |
|------------------------------|-----------|------------|------------|-----------|
| | | 順調 | 要注視 | 要改善 |
| 1 未来へ雄飛！ 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装 | 19 | 14 (73.7%) | 4 (21.0%) | 1 (5.3%) |
| 2 未来へ加速！ 「強靱とくしま・安全安心」の実装 | 20 | 16 (80.0%) | 2 (10.0%) | 2 (10.0%) |
| 3 未来へ挑戦！ 「発展とくしま・革新創造」の実装 | 23 | 12 (52.2%) | 9 (39.1%) | 2 (8.7%) |
| 4 未来へ発信！ 「躍動とくしま・感動宝島」の実装 | 12 | 6 (50.0%) | 3 (25.0%) | 3 (25.0%) |
| 5 未来へ継承！ 「循環とくしま・持続社会」の実装 | 17 | 14 (82.3%) | 2 (11.8%) | 1 (5.9%) |
| 計 | 91 | 62 (68.1%) | 20 (22.0%) | 9 (9.9%) |



<参考> 評価の基礎となる主要事業の判定結果

| ターゲット | 主要 事業数 | 判定区分 | | | |
|------------------------------|-----------|-------------|-----------|------------|-------------|
| | | A | B | C | 判定外(※) |
| 1 未来へ雄飛！ 「笑顔とくしま・県民活躍」の実装 | 139 | 83 (59.7%) | 9 (6.5%) | 18 (12.9%) | 29 (20.9%) |
| 2 未来へ加速！ 「強靱とくしま・安全安心」の実装 | 169 | 83 (49.1%) | 6 (3.6%) | 10 (5.9%) | 70 (41.4%) |
| 3 未来へ挑戦！ 「発展とくしま・革新創造」の実装 | 175 | 110 (62.9%) | 11 (6.3%) | 20 (11.4%) | 34 (19.4%) |
| 4 未来へ発信！ 「躍動とくしま・感動宝島」の実装 | 47 | 22 (46.8%) | 2 (4.2%) | 10 (21.3%) | 13 (27.7%) |
| 5 未来へ継承！ 「循環とくしま・持続社会」の実装 | 107 | 66 (61.7%) | 3 (2.8%) | 5 (4.7%) | 33 (30.8%) |
| 計 | 637 | 364 (57.1%) | 31 (4.9%) | 63 (9.9%) | 179 (28.1%) |

※ 判定外とは、主要事業ではあるが数値目標の設定が適さないものや、数値目標はあるがその実績が判明していないもの等である。このような事業については、その取組状況を評価の参考としている。

(2) 評価結果の概要

今回の評価結果において、全91施策のうち、「順調」と評価したものは62施策(68.1%)、「要注視」と評価したものは20施策(22.0%)、見直しが必要な「要改善」と評価したものは9施策(9.9%)となった。

この結果を昨年度と比較すると、表-2に記載のとおり、「順調」が増加、「要改善」が減少しており、新型コロナの影響が長期化する中、リモートを併用した事業の展開など、担当部局による創意工夫の努力が功を奏し、計画の進捗状況が改善したものと考えられる。

一方で、コロナ禍前である計画初年度の水準までは回復しておらず、依然として、各事業の実施に、新型コロナが大きな影響を及ぼしており、以下に記載の施策など、今回、「要改善」と評価した主要施策には、新型コロナの影響を受けているものが多く見受けられる。

○「感染症対策の充実強化」(ターゲット2-3-3)

要因としては、「新型インフルエンザ対策」にかかる事業の数値目標である「新型インフルエンザ等感染症の対策訓練」の達成率が低かったことが挙げられる。医療機関における実働訓練や情報伝達訓練を計画していたが、訓練の要所となる保健所、医療機関が新型コロナ対応を優先せざるを得ない状況となり、訓練等への参加が困難となったため、実施を見送ったことにより、未達となった。

○「グローバル人材の育成」(ターゲット3-4-1)

要因としては、「異文化理解やコミュニケーション能力の育成」にかかる事業の数値目標である「高校生の留学者数」の達成率が低かったことが挙げられる。新型コロナ感染拡大の影響のため、海外への渡航が全て中止されたことにより、未達となった。

○「あわ文化による『文化と経済の好循環』」(ターゲット4-1-1)

要因としては、「あわ三大音楽」にかかる事業の数値目標である「『とくしま夏の音楽祭』への参加者数」等の達成率が低かったことが挙げられる。新型コロナの感染拡大により各種イベントが中止となったことにより、未達となった。

個別意見の詳細は後述のとおりであるが、達成度合いが低い施策に対しては、実施手法の柔軟な対応を求める意見が出されたほか、デジタルを活用する際のデジタルデバイドの解消など、様々な施策に対して、ポストコロナを見据えた幅広い視点からの意見が出されている。

表-2 過年度の評価結果との比較

| 計画年度 | 主要 施策数 | 評価結果 | | |
|--------------------|-----------|------------|------------|------------|
| | | 順 調 | 要 注 視 | 要 改 善 |
| 今 回 (計画3年目) の評価結果 | 91 | 62 (68.1%) | 20 (22.0%) | 9 (9.9%) |
| R3年度 (計画2年目) の評価結果 | 91 | 50 (54.9%) | 16 (17.6%) | 25 (27.5%) |
| R2年度 (計画初年度) の評価結果 | 91 | 78 (85.7%) | 9 (9.9%) | 4 (4.4%) |

(3) ターゲットごとの意見

委員から、5つのターゲットごとに、次のような意見が出された。次期総合計画の策定に際し、十分に参酌していただきたい。

ターゲット1 未来へ雄飛！「笑顔とくしま・県民活躍」の実装

- ア デュアルスクールについては、地域に短期居住できる場所があれば、受入れをしやすい自治体もある。空き家の活用や居住場所の確保など、教育分野だけでなく、他分野との連携が非常に重要だと思う。
- イ 本県への本社機能誘致数について、企業の規模によっては、1社が移るだけでも相当なインパクトをもたらす場合がある。企業の数だけではなく、その規模も考慮して、目標を設定する必要があるのではないかと。
- ウ 本社機能の移転について、徳島に移転すると企業側にどのようなメリットがあるのか、企業がどのようなことを求めているのかなどを視野に入れ、企業目線での政策づくりをお願いしたい。
- エ 国府町芝原にオープンした「人形のムラ」では、徳島が誇る人形作家の作品が数多く展示され、「箱まわし」、「三番叟」、「恵比須まわし」などの実演や、伝統を後世へ引き継ぐための取組も行われており、これを観光面でも有効活用できるよう検討していただきたい。
- オ 普段の生活の中で、若い人たちがかなり交通面で困難を抱えており、改善を望んでいるという話を聞いた。汽車が駅に着いて、そこから目的地へ向かう時のバスの接続が特に大きな問題。公共交通の利便性促進のため、事業者に対してのサポートや、事業者同士の連携へのサポートに取り組んでもらいたい。
- カ 総合大学校の主催講座について、講座内容に関心があって受講する人もいれば、家の外に出て他の人とコミュニケーションを取る機会として、講座とプラスアルファの効果を期待して受講する人もいる。そういう意味ではオンラインになるとモチベーションが下がってしまうかもしれないが、アクセス等の問題も考慮し、引き続きオンラインを活用したハイブリッド形式での実施を続けてもらいたい。
- キ 学校給食を試食したのだが、野菜の量は少なく、先生方からは野菜が残飯として残っていることが多いと聞いた。本県は肥満児童が多いということで、学校給食や各家庭において、野菜を1日350グラム摂取できるよう、指導を行っていただきたい。
- ク 高校生から高齢者と交流する場が欲しいという話を聞いたので、若者と高齢者が交流できるような取組を検討いただきたい。
- ケ 農作業や地域の清掃活動などに熱心に取り組む高齢者の方がたくさんいる。その方々を県のホームページで公開したり、マスコミに取り上げてもらったり、感謝状や表彰状を贈呈するなど、高齢者の模範として取り上げ、更なる高齢者活躍の機運醸成を図ってはどうか。

コ 出生率の上昇や待機児童の解消も当然重要だが、「困難を抱える子どもへの支援」に関する施策には、より一層力を入れてもらいたい。

ターゲット2 未来へ加速！「強靱とくしま・安全安心」の実装

ア 教員採用試験の受験要件に、教員免許だけではなく、防災士資格を有することも付け加えてはどうか。防災士資格を有していれば、すぐに実地で活かせると思うので、検討してもらいたい。

イ 「毎月1点検運動^{※1}」について、多くの人に知ってもらえるように、広報の工夫をお願いしたい。

ウ 国土強靱化やインフラの長寿命化の課題がある中、生物多様性やグリーン社会の推進という点で将来を見据えた場合に、インフラをグリーンインフラに置き換えていくことも検討してもらいたい。

その検討の際には、グリーンインフラにはどのような可能性や技術があるのかを考慮し、徳島ならではの取組をお願いしたい。

エ 新型インフルエンザ等感染症の対策として様々な取組を実施されているが、対策訓練が実施できなかったということだけでこの施策を評価するには、評価材料が非常に少なく感じるので、検討いただきたい。

オ 犬・猫の県外譲渡推進のためのクラウドファンディングについて、これが犬・猫の殺処分ゼロを目指したものだということを強くアピールしたほうが、より効果的に募集ができるのではないかな。

カ 自動車の運転をする際、横断歩道の有無に関わらず、自転車や歩行者が道路を渡る際には停止をしているが、後続車に車間距離を詰められてプレッシャーをかけられることがある。あおり運転などの交通マナーについても、しっかりと啓発を行ってもらいたい。

キ 鳥獣被害対策について、県下各地でシカやイノシシ、カラスの被害があるという声を聞くので、より強力に鳥獣被害対策に取り組んでいただきたい。

ターゲット3 未来へ挑戦！「発展とくしま・革新創造」の実装

ア マイナンバーカードの交付率100%を目指すには、例えば、会社の全員がマイナンバーカードを取得すると税金が安くなるといったような大胆な施策など、今後の対応を検討いただきたい。

イ 「高校生ビッグデータ活用コンテスト」について、共通テストに「情報」が追加されることに伴い、6校だけではなく、全校参加を目標としてはどうか。

また、コンテスト応募に係る勉強会の講師選定は重要なので、戦略的に考えてもらいたい。

※1 毎月1点検運動

県民一人ひとりが、県が示す毎月1つのテーマに沿って、家庭や事業所、地域において取り組む点検活動。

- ウ 大阪・関西万博では、徳島が先陣を切って、「徳島『まるごとパビリオン』」というコンセプトのもと、地域の生き方や生活の仕方を伝えていくと思うが、これが徳島の積極的かつ先進的な取組であるということを発信し、他に埋もれないようにブランディングしていただきたい。
- エ 大阪・関西万博において、徳島の最大の観光資源の1つである阿波おどりの出番を作ってもらえるよう、関西の姉妹連と連携を取りながら進めてもらいたい。
- オ 観光プロモーションについては、コロナ前の流れに戻ってから対策を行うのでは遅く、今が打ち出していく時だと思う。他県に先立って動くことが重要で、どういうターゲットにするかも含めて対策を検討いただきたい。
- カ 来訪者の満足度について、満足度が高い項目、あるいは低い項目がわかる具体的なデータを今後の活動に活かしていただきたい。
- キ 吉野川には本当に素晴らしい魅力があるが、県外にはなかなかその良さが伝わっていないところが課題。吉野川に関する講座受講者もおそらく県内の人が多いと思うので、今後は、県内よりも県外に向けて、どのように吉野川の魅力を発信するかに重点を置いた施策を実施していただきたい。
- ク 農林水産業は小規模・零細事業者が多く、長引くコロナ禍と物価高騰の中で、経営維持は非常に厳しい状況である。経営が圧迫されると、耕作放棄地の増加にも繋がるおそれがあるため、事業者に対する補償等を検討していただきたい。
- ケ 米農家は、農業機材等にコストがかかる反面、今の米価だと利益が上がらず、再生産が難しくなっている。せめて再生産ができるだけの米価に上げるなど、お米の需要と供給のバランスを保てるように取り組んでもらいたい。
- コ 農地集積が進む中で、畔草の管理が農家にとって負担となっている。畔を取り払って、一枚の広い水田にできるような支援策をお願いしたい。
- サ にし阿波地区の世界農業遺産の維持発展について、高齢化が深刻化する厳しい状況ではあるが、市町村と連携しながら取り組んでもらいたい。
- シ 東京の「名代富士そば」と徳島県がコラボして、すだちを使ったメニューを販売しているとのことで、先日実際に店舗を訪れてみたが、徳島感がなく、あくまで「富士そば」という印象しか残らなかった。今後いろいろな所とコラボをする際には、本県に来たいと思ってもらえるような、徳島を最大限にアピールする仕組みづくりを検討いただきたい。
- ス 「Turn Table」において、にし阿波の世界農業遺産のものを取り入れたり、食以外の徳島の伝統文化や伝説というところも取り上げるなどの工夫をし、「Turn Table」を通した徳島のアピールを進めていただきたい。
- セ 「阿波ふうど」は、まだまだ認知度が低いように思う。大阪・関西万博において、「阿波ふうど」という食の「フード」はもちろん、「風土」の観光や文化、なおかつ「阿波」の徳島県全体のことも含めて売り出し、頑張って認知度を上げてもらいたい。

- ソ 他県では、「阿波おどり」は知られているが、「阿波尾鶏」はほとんど知られていない状況であるため、今後どう販売していくかについてもう少し検討いただきたい。
- タ 藍の振興については、タデ藍の収穫面積を増やすという生産面の増強を図る施策だけではなく、やはり需要を増やす施策ももっと取り入れていく必要がある。まずは、県民の方に藍を買ってもらえるような、県民からの需要を増やす施策を考えてはどうか。
- チ 林業現場における若手作業員の労働災害の発生が増加しており、現場では、山の歩き方から指導する必要があるという声も上がっている。県としても現場での研修をしっかり行っていただき、労働災害の防止に向けた対策をお願いしたい。
- ツ 今年、日中国交正常化 50 周年という節目の年であるため、50 周年を記念し、両大使館や在大阪総領事館とともに、経済交流や民間交流が活発になる仕掛けを作っていたいただきたい。
- テ グローバル人材の育成に関して、オンラインを活用したとのことだが、参加者の間でネットワークや端末などの環境の格差が生じた場合には、全員が参加しやすくなるための工夫に取り組んでいただきたい。
- ト オンラインが完全に対面の代替になるとは考えておらず、対面で実施することの良いところもたくさんあるので、教育や活動の内容によって対面が良いと思われる場合は、しっかりと対面で案内できるように柔軟に対応いただきたい。
- ナ ネクスト・リーダーを育てるということで、数値目標が「東京大学、京都大学進学者数」となっているが、県で色々と取り組んでいる施策と、東大や京大の進学者数が増えるのとは、あまり関係がないと思うので、別の数値目標にするなどの検討が必要ではないか。
- ニ キャリア教育について、起業に関する教育も進めているとのことだが、起業というと税金の問題が付きものであるため、学習内容に租税教育を取り入れていただきたい。

ターゲット4 未来へ発信！「躍動とくしま・感動宝島」の実装

- ア 高齢化や新型コロナの影響により、地域の小さな伝統文化や伝統行事は徐々に廃れていっており、伝統を継承していくための支援に力を入れてもらいたい。例えば、行政や企業において、地域行事に参加する際には有給の休みがとれるような徳島初の制度を検討してはどうか。行政・企業等で有給の休みをとれる仕組みを作ってほしい。
- イ 徳島県へ自転車に乗りに来て下さいねと言っても、基本的に車が多く走っており、現状ではなかなか難しい。なおかつ自転車を持ってきて移動することも大変である。来ていただいた方が自転車に乗りやすい仕組みづくりが必要である。

ウ サイクルツーリズムの進展は、徳島の観光において非常に重要な要素だと思うので、大鳴門橋の自転車道の整備については、是非、実現してもらいたい。

エ 朝ドラの誘致・支援にも是非チャレンジいただきたい。三好長慶以外にも、徳島ゆかりの偉人はたくさんいる。中でも大正から昭和にかけて人々のために尽くした社会運動家である、賀川豊彦夫妻をモチーフにした朝ドラへの機運を醸成してはどうか。

ターゲット5 未来へ継承！「循環とくしま・持続社会」の実装

ア パークアンドライド計画の目的が、マイカー利用から公共交通利用への転換ということであれば、駐車場ができたことによりバス利用が月ベースでの位伸びたとか、利用者のニーズがどれ位あるのかについて調査をするなど、利用していただくことを前提にした取組をお願いしたい。

イ SDGs は、新聞にも掲載されていたり、色々な活動が行われ、今本当に取り組まないといけない問題であるのは分かるが、詳しい内容を知らない人もいると思うので、各地域に出向いて話をしていただきたい。

ウ 遍路道で大規模な不法投棄があることをよくニュースで見る。四国遍路の世界遺産登録に向けても、遍路道の不法投棄はなくさなければいけない問題であり、パトロールの実施に力を入れていただきたい。

エ 県内沿岸でたくさんの漂流物が打ち上げられており、県と沿岸市町村とが連携した取組が強く求められている。是非、県にはリーダーシップを取って進めていただくとともに、清掃活動に取り組むボランティアの方が意見を言える場を設けていただきたい。

オ 生物多様性の劣化は、SDGs の目標の中でも特に世界的に大きな課題である。千年サンゴや剣山サポータークラブなど、継続的に頑張っている所での現状の課題について、このような会議の場で共有し、自分事として考えてもらえるような契機としていただきたい。

カ 新町川の護岸が青石で非常にきれいに整備されており、ひょうたん島周遊船の魅力の1つとなっている。現状では全部が整備されていないため、なるべく早く整備されていないところを整備していただきたい。

キ 生物多様性アドバンスリーダー^{※2}のことを今回初めて知ったので、もう少し周知をしていただきたい。こういう方々が増えると、徳島県下で色々な活動ができると思う。

ク 生物多様性アドバンスリーダー養成講座等を受けた方々が、受講後にうまく活動していけるようなフォローアップや活動の場づくりなどを進めていただきたい。

※2 生物多様性アドバンスリーダー
生物多様性の普及啓発や保全活動の担い手の中心となる人材。

ケ PFI方式による県営住宅団地の建替については、民間の人たちのアイデアをたくさん取り入れて、今後も引き続きタッグを組んで進めていただきたい。

コ 公営住宅は、ほとんどがコンクリートの住宅であるが、あらかし工法³で建てられるということで、どのような公営住宅になるのか期待している。本県の木材を使って、是非この事業を実現していただきたい。

サ 四国新幹線は、利用者目線から言うと、徳島が主張している関西から淡路島を通して四国を横断するルートが一番便利と考えている。引き続き整備に向けて頑張ってもらいたい。

(4) 総合的な意見

行動計画全体に対して、次のとおり数多くの総合的な意見が出された。

については、次期総合計画策定上の大局的なまたは技術的な指針の一つとして念頭に置いていただきたい。

ア 2025年の大阪・関西万博を見据えて全庁的に取り組んでいるということだが、県庁がトップランナーとして、市町村より随分先を走っているところがあると思うので、市町村にも情報共有し、徳島県全体で進めていただきたい。

イ ポストコロナを見据えて色々と取組をされているので、着実に成果に結びつけられるよう実行していただきたい。

ウ 新型コロナ対策について、今はまだマスクを外しにくい状況だが、こういう風にする安全などといった情報発信をしていただけたらありがたい。

エ 大阪・関西万博を契機に、何かの技術やアイデアを導入する際は、柔軟に実証を重ねながら、しっかりと取り組んでいただきたい。

オ 今年になって、為替レートが円安の方向に動いている。この円安の影響が出るのは、2022年度実績からになると思うが、例えば輸出に関する金額やインバウンドの増加などは、為替の変動により追い風が吹くだろう。このような比較的プラスの影響が出てくる関連項目については、積極的な経済活動に結びつけていただきたい。

カ モノをつくる一次産業者の経営維持の難しさについて、机上で数字だけを見て話すのではなく、実際に地元に来て、その人達の苦労の話を聞いてもらいたい。今抱えている不満だけではなく、今後の施策推進の参考になる話も聞けると思う。

キ 新型コロナ対応業務に従事する全ての県職員への対応として、感染防止対策、健康管理、人員配置、長時間労働とならない対策などに、しっかりと取り組んでいただきたい。

※3 あらかし工法

構造材を見せるように設計された木造建築の手法。

(5) 「DX」および「GX」の視点からの意見

行動計画全体に対して、次のとおり「DX」および「GX」の視点からの意見が出された。

については、次期総合計画の策定に際し、十分に参酌していただきたい。

「DX」の視点からの意見

ア リモートを併用する際は、デジタルデバイドで困っている方々のことは忘れてはいけない。コロナ禍で、直接使い方等を教えることは難しい状況ではあるが、しっかりとその対応に取り組んでもらいたい。

イ 新型コロナを契機に、リモートでの授業など、今まで技術はあったが導入や適応がされていなかったところにDXが実装されていくことを経験した。今後徳島の素晴らしい色々な技術を柔軟に導入していってほしい。

ウ リモートやハイブリッドで実施しても達成度合いが低い施策は、今はまだ導入できていない技術やアイデアにより克服できることがあると思うので、柔軟に対応していただきたい。

エ DXが進んで楽ができるのは非常にありがたい。しかし、人間は自分のエネルギーで生きていけるのだから、自分で動くことも忘れずに、DXの推進に取り組んでいただきたい。

オ DXは目標ではなくて、あくまで手段。DXの考え方をを用いることにより、低コストで効率的に施策を推進できるということであれば、積極的に進めていくといいと思う。

カ 県としてやるべき施策をするために必要な手段である、財源やマンパワーの確保は、今後ますます厳しい状況になるだろう。新しい手段として行政部門でのDX化を進めるとともに、DX化が急速に進んでいる民間部門の力も積極的に利用することにより、県の施策にプラスの効果が相乗効果として現れると思う。

「GX」の視点からの意見

ア GXに関しては、市町村と県の連携が非常に重要な役割を持つものと考えている。将来を見据え、市町村と連携しながら戦略的に進めてほしい。

イ GXというのは、徳島の人はずっと培ってきたような暮らし、ライフスタイルというのにも含まれると思う。そういった徳島の生活や技術の魅力的なところを、大阪・関西万博において、県民とも共働しながら発信してほしい。

ウ 生物多様性、カーボンニュートラル、SDGsは、全部局に関わることである。こういったテーマに対して、各所属それぞれにどういう関連性があるのか、どのように貢献できるのかといったことを、自分事として考える場や時間を作ってはどうか。GXに関連する問題は、各所属がバラバラに取り組むのではなく、一緒になって進めていただきたい。

「DX」および「GX」の視点からの意見

- ア DXとGXについて、県がフロントランナーとして走っているが、市町村とはまだかなり温度差があると思う。DX、GXが、市町村も含めて徳島県全体の共通言語となるように進めていただきたい。
- イ DXやGXは、行政や企業それぞれの場所で推進をしていく人材を育てることが非常に重要だが、これは県だけでできる訳ではなく、リカレント教育を行っている大学が非常に大きな役割を持つと考える。大学においても、DXやGXに関するカリキュラムをさらに充実させ、県と連携して広く発信していければいいと思う。

3 次期総合計画への反映

4 ページの 2 の「(2) 評価結果の概要」で記載したとおり、本年度の評価結果は、昨年度と比較すると、「順調」は増加、「要改善」は減少しており、新型コロナウイルスの影響が長期化する中でも、担当部局が継続的に創意工夫の努力を図ったことにより、ウィズコロナにおける「新たな日常」を踏まえた事業の実施手法が定着し、進捗状況の改善につながったことについては、一定の評価ができる。

しかしながら、「順調」と評価した項目数が、新型コロナ以前の水準まで至らなかったことは、実施手法の見直し効果が小さい、または実施手法の見直しそのものが困難なことにより、目標達成に至らなかった事業が一定数あったことを示すもので、今後、「ポストコロナ新時代」を見据え、より適切な目標設定や、これまで以上に工夫を凝らした施策の実施手法などを検討する必要がある。

さらに、あらゆる分野で「デジタル社会」及び「グリーン社会」の実現に向けた社会変革が加速する中、今回の戦略会議において、「DX」と「GX」の視点からの意見を募ったところ、委員からは、県の取組を評価する意見がある一方で、「市町村も含めた県全体で推進すべきである」など、今後の施策展開に関する新たな課題も提示された。

これらを含め、戦略会議では、各分野の第一人者である委員から、コロナ禍以前からの課題に関する意見や、マイルストーンとなる「大阪・関西万博」を見据えた意見など、幅広い視点から「70件」を超える提言を行っており、次期総合計画の策定に際しては、これら全てをしっかりと受け止め、十分に参酌していただくことを強く望む。

また、各部局において、4年間の施策展開の中で明らかとなった課題を分析し、今一度、「県民目線」・「現場主義」に立ち返って、各施策がより効率的・効果的に実施されるよう、既存事業の大胆な転換と再構築、県民の「成果実感」につながる目標設定の徹底など、抜本的な見直しを行っていただきたい。

その上で、社会の変化や県民のニーズに柔軟に適応した、県民と共に未来を創る「新たな総合計画」を創り上げ、「人口減少」、「災害列島」、「新型コロナ」という3つの国難打破に向け、あらゆる施策を総動員し、積極果敢に挑戦していただきたい。

戦略会議からの提言がその一助となることを願う。

II 「県民からの優れた意見・提言」の採択について

令和3年4月から令和4年3月までの間に「とくしま目安箱」等に寄せられた意見・提言のうち、次の7件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

| | 項目 | 意見・提言の内容 |
|---|------------------|--|
| 1 | 県のイメージアップについて | <p>世界観光地ランキングで第6位に四国が選ばれている。四国の観光地もだが、お遍路さんの文化が関心を集めている。世界から観光客が訪れると思われるが、観光ルートやお遍路道、お接待、民宿等のPRが必要。</p> <p>めったにないチャンスであるため、日本をはじめ世界に向けてTVコマーシャル等でアピールし、一気に県のイメージアップ、観光客の誘致、住みたいまち等のイメージを上げ、人口減少を食い止める手立てとするような、総合的な施策を考えているのか。</p> |
| 2 | 自転車の活用について | <p>私は自転車に乗るのが好きだが、遠方に行くには不便だなと感じることがよくある。ドイツでは、列車に自転車専用車両があり、自転車を乗せて移動できた。列車で移動し、駅から自転車で動ければ移動範囲が広がり、観光やちょっとしたおでかけでも更に楽しめると思う。</p> <p>ただ、なかなか実現できないかもしれないため、観光地の駅周辺や街中におけるレンタサイクルの設置を提案する。ハワイなどによくあるが、無人のレンタサイクルスポットがあればすごく便利だと思う。支払はキャッシュレス決済が使える、どこでも借りたり返したりができ、スマホでサイクルスポットの検索やレンタサイクルの残数や返却が可能か確認できたりすれば、インバウンドの獲得にもつながるのではないかなと思う。</p> |
| 3 | 自転車王国について | <p>しまなみ海道のように、鳴門大橋の下の部分を自転車で走れるようにして欲しい。それができてはじめて自転車王国と名乗れると思う。淡路島と鳴門をつないで、観光の目玉にしてはどうか。せっかく資源があるのに使わないのはもったいない。</p> |
| 4 | プラごみゼロスマート宣言について | <p>プラごみゼロスマート宣言やSDGsへの取組を宣言しているのは素晴らしいことであり、応援したいと考えているが、徳島県は取組としてはまだまだで、もっと積極的に行って欲しい。</p> <p>徳島県のいろんな部署、事業などでクリアファイルの提供や、うちわの配布、プラ製キーホルダーの配布など、粗品や景品として配布を行ってはいないか。プラごみ、プラスチックやペットボトルの消費についてもっと考えて事業を行い、循環型社会への移行を早く進めて欲しい。</p> |
| 5 | 子育てに係る「父親支援」について | <p>産後から男性が子育てに主体的に参加することが当たり前の社会になってほしいと考えている。産後であれば妊娠中、育休復帰であればその前に、父親もきちんと育児について学び、実践できるようにするための「父親支援」を徳島でももっと広げていって欲しい。</p> |

| | 項目 | 意見・提言の内容 |
|---|--------------------------|--|
| 6 | 県立木のおもちゃ美術館について | <p>木のおもちゃ美術館の入場者数制限に伴う受付方法について、見直しをお願いしたい。</p> <p>先日訪問した際は、建物前での直接受付だったが、これだと遠くからの訪問者はとても入りづらく、小さい子どもを連れて早朝から出かけるのは大変である。県立の施設で、県内の居住地によって利用のし易さに差が出ることに對して不満を感じる。</p> <p>徳島県はネット環境の良さで積極的に県外企業の誘致をしていたと記憶している。感染対策という意味であれば尚更、そういったものを利用し、webでの受付等、もう少し多くの人にとって利用しやすい受付方法を検討していただきたい。</p> |
| 7 | とくしま水物語（仮称）のパンフレット作製について | <p>徳島には、無料で水が汲めるところが数カ所あるが、それを紹介しているパンフレットはあまりないと思う。（例として、南小松島駅前の「のぞみの泉」や「宝寿水」や、徳島市蔵本駅前の「蔵清水」など、ポンプを汲み上げているものがほとんどかもしれない。）</p> <p>愛媛の伊予西条のように豊富に湧出はしないけれど、徳島県民・日本国民に知ってもらえるようなパンフレットを作製して欲しい。</p> |

県政運営評価戦略会議委員名簿

| | 氏 名 | 現 職 等 |
|-----|--------|----------------------|
| 会 長 | 石田 和之 | 関西大学 教授 |
| 副会長 | 阿部 頼孝 | 徳島文理大学 名誉教授 |
| 委 員 | 伊庭 佳代 | つるぎ木材加工協同組合 理事 |
| 〃 | 植田 美恵子 | 徳島女性農業経営者ネットワーク 会長 |
| 〃 | 加藤 研二 | 阿南工業高等専門学校 准教授 |
| 〃 | 近藤 明子 | 四国大学 准教授 |
| 〃 | 坂本 真理子 | 阿南工業高等専門学校 研究員 |
| 〃 | 田村 耕一 | 徳島大学 理事(広報・渉外担当)・副学長 |
| 〃 | 鳴滝 貴美子 | 和田島漁業協同組合女性部 部長 |
| 〃 | 南波 浩史 | 共立女子大学 教授 |
| 〃 | 久岡 佳代 | かいふの木の家 事務局長 |
| 〃 | 藤原 学 | (公社)徳島県労働者福祉協議会 顧問 |
| 〃 | 梶本 久実 | 税理士 |
| 〃 | 三木 潤子 | 親子ふれあい教室 みきはうす 経営 |